

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

特許第3359287号
(P3359287)

(45)発行日 平成14年12月24日(2002. 12. 24)

(24)登録日 平成14年10月11日(2002. 10. 11)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	
C 0 2 F 1/50	5 3 1	C 0 2 F 1/50	5 3 1 R
	5 4 0		5 4 0 A
	5 5 0		5 5 0 D
B 0 1 D 53/04		B 0 1 D 53/04	G
53/86		B 0 1 F 1/00	A

請求項の数 2 (全 9 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号	特願平10-155677	(73)特許権者	501427489 株式会社マサキ 大阪府大阪市中央区谷町5丁目3番17号
(22)出願日	平成10年6月4日(1998. 6. 4)	(72)発明者	田村 耕三 大阪府東大阪市長田東2-1-27 株式会社タムラテコ内
(65)公開番号	特開平11-347564	(72)発明者	戎脇 登 大阪府東大阪市長田東2-1-27 株式会社タムラテコ内
(43)公開日	平成11年12月21日(1999. 12. 21)	(74)代理人	100080746 弁理士 中谷 武嗣
審査請求日	平成12年3月15日(2000. 3. 15)	審査官	真々田 忠博

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 殺菌水発生装置

1

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】 オゾン発生体1と、該オゾン発生体1にて生成されたオゾンを水に混合溶存させてオゾンガス混合水を形成する混合器2とを、備えた殺菌水発生装置に於て、上記オゾン発生体1は、高压側電極端子10aが固着される円筒状の内筒体5と該内筒体5に外嵌されると共に低压側電極10bが外面に接続される円筒状の外筒体6とを備え、該内外筒体5、6の間に断面円環状の放電空間7を形成し、上記外筒体6の上端が蓋部14にて閉鎖され、上記内筒体5内を上方に流れるエアは、上記蓋部14にてUターンし、上記放電空間7を下方に流れてオゾンを生成し、上記オゾン発生体1は、下ケーシング31a内に配設された中間筒体24内に立設され、さらに、該中間筒体24は、上記オゾン発生体1よりも大きい径でかつ上記下ケーシング31aの内径よりも小さい径とされた

2

中間径であって、上記オゾン発生体1の外筒体6と上記中間筒体24との間に円筒状の通路94を形成し、上記中間筒体24と上記下ケーシング31aとの間に円筒状通路を形成し、上記下ケーシング31a内でかつ上記中間筒体24内の通路94の上方部位に上記中間筒体24が存在しない気水分離室部95を形成し、さらに、上記オゾンガス混合水を上記中間筒体24内の通路94を上昇させて上記オゾン発生体1の外筒体6外周面に接触して上記オゾン発生体1を冷却させ、上記中間筒体24内の通路94のオゾンガス混合水を気水分離室部95内に流入して流速変化させて気水分離を行ない、上記気水分離室部95内のオゾン水を、上記中間筒体24と上記下ケーシング31aとの間の円筒状通路を下降するように構成し、かつ、フロート弁97を有する余剰ガス排出装置98を、上記下ケーシング31aの上に積上げられて一体に連結された上ケーシング31b内に設け